

政策評価・事務事業評価シート

事業名称 「中・高齢者生き甲斐づくり推進事業」

	H28年度予算額	(参考) H27年度決算額	(参考) H26年度決算額
事業費	10,000,000円	10,000,000円	10,000,000円

事業評価チェック表

PLAN	・事業の概要	市内各地域の中・高齢者を対象に、地区生涯学習推進協議会を中心とした生き甲斐をもって生活できる事業を展開する。 (例) 地域づくり、まちづくり講演会、ボランティア活動、エコ活動、シルバースポーツフェスティバル コミュニティ活動、世代間交流等
	・ねらい ・予算	地域住民の協働・活力による特性を活かした事業を通じ、元気な太田市を創設する。 平成28年度当初予算額 10,000,000円、平成27年度決算見込額 10,000,000円
DO	・事業実績	委託先：市内16地区生涯学習推進協議会 委託料：基礎額40万円に、各地区45歳未満及び45歳以上(中・高齢者)の人口比例に応じた額を加算し配分する。 委託内容：地域づくり、まちづくり講演会、ボランティア活動、エコ活動、シルバースポーツフェスティバル コミュニティ活動、世代間交流等 実績：平成27年度 172事業 45,876人 平成26年度 199事業 52,800人 平成25年度 226事業 43,037人

CHECK	評価項目	評価基準(概要欄の○)		評価点	評価コメント
	必要性 (市民ニーズ)		きわめて必要性が高い(20点)		15
必要性が高い(15点)			○		
どちらかと言えば必要性がある(10点)					
必要性が低い(5点)					
必要性がない(0点)					
公共性 (市で行わなければならないか)		市が行わないといけない(20点)		15	地域の自主性を尊重する趣旨から、実施事業の計画、企画立案に係る部分を各地区生涯学習推進協議会に委託しているが、やはり費用の面で市の協力が無いと実施が困難となる事業も多いため、公共性は高いと考える。
		公共性が高い(15点)	○		
		どちらかと言えば市が実施(10点)			
		公共性が低い(5点)			
		公共性がない(0点)			
費用対効果 (コストに見合った成果があるか)		きわめて効果的である(20点)		15	参加者の生き甲斐づくりに寄与しているかどうかについて、その効果を数字等では測りにくい部分はあるが、参加者同士が励まし合ったり、その表情や発言からは事業への参加が日常生活の活力となっていることが伺える。
		効果的である(15点)	○		
		どちらかと言えば効果的(10点)			
		どちらかと言えば非効果的(5点)			
		非効果的である(0点)			
優先性 (他事業に優先し実施する必要があるか)		きわめて優先性が高い(20点)		15	必要性における同種の他事業との棲み分けの問題は共通しており、その捉え方により優先性に対する評価は異なるが、今後予想される高齢化率の上昇、それに伴うコミュニティ活動の重要性を考えると、事業の優先性は高い。
		優先性が高い(15点)	○		
		どちらかと言えば優先性がある(10点)			
		優先性が低い(5点)			
		優先性がない(0点)			
成果 (目標の達成状況)		きわめて成果があがっている(20点)		15	所管における目標達成の度合いを測るための成果の検証が乏しい部分があるが、地域住民と協働した、活力ある事業も多くあり、また生き甲斐づくりの推進という観点からは一定の成果が認められると考える。
		成果があがっている(15点)	○		
		どちらかと言えばあがっている(10点)			
		どちらかと言えばあがっていない(5点)			
		成果はあがっていない(0点)			

ACTION	評価	総合評価基準		計	75/100	課題
		5	きわめて良好である 80点以上		4	実施事業については各地区生涯学習推進協議会に委託されており、企画立案の過程においてその自主性が尊重されているが、実施後の検証が乏しいと感じられる部分が見られる。同時に他部、他課で行われている同種の事業との棲み分けについても調査、検証が不十分であった。
		4	適正である 60~79点	○		
		3	おおむね適正である 40~59点			
		2	問題がある 20~39点			
		1	不適正である 19点以下			

決算事業評価結果表

評価	今後の方向性基準評価(概要欄の○)		評価	3	決定理由 事業の評価としては適正であるが、効率的に本事業を継続させるためには、課題等で指摘された他部、他課で行われている同種の事業との棲み分け(重複の回避)を行うなど、改善の余地は大いにあると考える。	
	5	「拡充する」				
	4	「現状のまま継続する」				
	3	「改善・効率化し継続する」				○
	2	「見直しのうえ縮小する」				
1	「不適正である」					

事業名称	議会評価		特定理由(今後の事業展開)
	総合評価	今後の方向性	
中・高齢者生き甲斐づくり推進事業	4	3	各地区で実施されている事業は、健康福祉、文化スポーツ等に関連したものが多く、類似事業に代替、集約できる余地があることから、見直しを行うことで、配分される委託料の効果的な使い方が期待できると考える。企画段階でのコーディネートや事業終了後に効果や満足度の検証を行うことなど、担当課、行政センター等の係わりについても研究が必要である。事業開始より8年が経過し、1,000万円という当初から固定されている事業費についても柔軟な対応が求められる。対象者が高齢者のみではないこと、生き甲斐づくりを目的としているところにこの事業の特徴があるので、今後も各地区における充実した事業実施を期待する。